

太平洋戦争 末期の

幼い記憶



▲千切砲台跡：本土決戦陣地としては県内最大級のコンクリート構造物
外から見えないよう、この中に大砲を据えた

戦争特集 第2弾

悲しい光景

終戦間近のある朝早く、陸軍が宿舎にしていた自宅近くの神社から、兵隊さんが大きな悲鳴を上げているのが聞こえてきました。声の方を見ると、神社の入り口の古い大きなナラの木に両手を縛られている上げられた兵隊さんを、上官らしい人が大きなこん棒で腰や背中を猛烈に打ち付けていました。兵隊さんは「お母さん、お母さん」としきりに叫んでいました。

後で分かったのですが、あまりの空腹のために近くの畑でまだ小さいサツマイモを掘り出して食べたことが、上官の知るところとなり、その制裁だったとのことでした。この兵隊さんは、住吉の特攻基地に送られたのではないかと心配したことでした。



終戦後に見た光景

震洋隊の悲劇

8月16日の夕方6時か7時頃、長かった戦争もやっと終わ

アメリカ軍の上陸に備えて

昭和20年に入ると、アメリカ軍の本土上陸がしきりに噂されるようになり、千切地区では、2か所に砲台が据えられました。1か所は大峰山のふもと（千切砲台跡）、もう1か所は現在の高速道路のトンネルの上（出口砲台跡）です。近くへ行ってみると、竹藪の間から物部川と飛行場がよく見え、大砲はいつでも日章飛行場の方を向いていました。祖父が「大砲は、自分が参戦した日露戦争当時のものを中国から運んできたものだろう」と言っているのを覚えています。

完成後まもなく、大砲の弾を弾薬庫に運び入れているのに出合いました。兵隊さんが一発弾を肩に乗せてくれましたが、重くて一歩も歩けませんでした。口径は7〜8cmほどでした。また、近くにはタコ壺壕（兵

砲台の爆破

ある日、据えられていた砲台を爆破する、という通知がありました。屋外に出るなどの指示が出ました。当日は、アメリカ兵が多数爆薬を持って上つていき、数時間して猛烈な音がして砲身の破片が家まで飛んできて、トイレの扉が破損しました。



▲出口砲台跡
戦後、連合軍により爆破処理されたが、地下壕内から遺物が発見された

その後、地元の有志によつて慰霊祭が行われるようになり、鎮魂の弔いは今に続いています。



▲慰霊祭の様子（震洋隊殉国慰霊塔）



▲グラマン戦闘機の模型
（実際の機体は全長約10m、全幅約13m）

グラマンの記憶

母の実家が飛行場に近かったので、時々進駐軍の航空機を見に行きました。かつて、手結港を銃撃したグラマンの同型機がたくさん集結していた時は、いかにも頑丈な姿で、こんな相手と戦ったゼロ戦など大変だったろうな、と子どもながら恐ろしく感じたことでした。終戦近くには、飛行場は猛烈な攻撃を受けていたと聞きました。

近くに多くの田んぼを所有していたため、射撃時の20ミリ機銃の弾薬がびつくりするほど落ちていました。これを取り除かないと田植えができないので子どもはこれを拾う作業をずいぶん手伝われました。

アメリカ軍の攻撃と避難

アメリカ軍の戦闘機は手結港の船や施設を機銃で攻撃。四国山地の上空から急降



▲大峰山の砲台跡の位置

下し、猛烈な射撃を繰り返しました。低空飛行のため、白人の若いパイロットが風防メガネをかけ白いマフラーをなびかせて繰り返し銃撃するのが見えました。終戦後、港に行ってみると防波堤にたくさんの弾の跡がありました。一人の青年がグラマンの射撃で足を貫通する重傷を負いました。

昭和20年の中頃には、アメリカ軍の上陸や艦砲射撃の可能性が噂されるようになり、家族全員で国光部落（現在の夜須町国光地区）の知人宅に避難しました。リヤカーに米、しょうゆ、みそ、と少量の食べ物、それに小さい妹や弟を乗せ軒下の一部と防空壕を借りて、数日間生活しました。しかし、老人や子どもの多い家族の生活は続くはずもなく、もうどこで死んでも仕方がないと、家に帰りました。



▲墜落したグラマン戦闘機のプロペラとエンジン
グラマン戦闘機の攻撃は連日繰り返された。中には墜落したものもあった



夜須町の溝淵成海さんは、終戦前後6〜7歳の少年でした。今回当時の断片的な記憶をたどり、手記を寄せてくださいました。手記につづられた終戦前後の混乱した世相や生活の様子と、手記に関連する遺跡の写真を、戦後80年の戦争特集「第2弾」としてお届けします。

広報編集委員 井上桂子

少年の記憶は80年前の戦争の貴重な証言となっています。真実や正しい情報が届かなかったため、多くの犠牲や悲劇が生まれました。記事作成にあたり、平成30年に市教育委員会が刊行した冊子『香南市の戦争遺産』の内容・写真を一部引用しました。同書では、香南市に起こった戦争の事実や遺構、体験者の多くの証言などを紹介しています。※香南市文化財センター（☎542296）で販売中です

